JAGCE第7回全国大会
芝浦工業大学芝浦キャンパ
301教室　10:50−11:15

ボーダー（壁）を乗り越える会話力の可視化への試みと成果

【大会テーマ】
『さまざまなボーダー（壁）を乗り越える試みと成果』

２０１９年１２月８日（日）
一般社団法人Ｇｌｏｂａｌ８

会長　八木　智裕　　http://global8.or.jp

目　次

発表テーマ選定理由

現状認識に共通使用したコミュニケーションテストOPIcについて

3つの壁への可視化適用・考察

- 理工系人材に関し大学教育と社会が求める人材像との壁
- 海外留学（特に語学留学）に関する期待と実態の壁
- 外国籍に求める日本語会話力と日本人の英語会話力の比較から双方の壁の比較

総括と提言

【大会テーマ】『さまざまなボーダー(壁)を乗り越える試みと成果』に沿った「試みと成果の紹介」と今年度学会発表の整理・紹介

- 理工系人材に関し大学教育と社会が求める人材像との壁
  - 「地域のリソースとしての理工系学生」(第5回北海道支部大会@北海道情報大学)
  - http://global8.or.jp/JH5_Presentation.pdf
- 海外留学(特に語学留学)に関する期待と実態の壁
  - 「賛助会員として海外留学の効果を考察する」(第5回中国・四国支部大会@広島文教大学)
  - http://global8.or.jp/JAGCE_CS5.pdf
- 外国籍に求める日本語会話力と日本人の英語会話力の比較から双方の壁の比較
  - 外国語教育メディア学会(LET):コミュニケーション可視化の多くの挑戦並びに効果量概念
  - 「CBTによる日本語学習者の口頭能力測定」(LET第58回全国研究大会:世良時子)
  - http://global8.or.jp/Ms.Sera_OPIcJ@2018LET.pdf

２．現状認識に共通使用したコミュニケーションテストOPI c について*1

- ACTFL*2ガイドに準拠し、実際のビジネスや生活の場でいかに効果的で適切に言語を使えるかの言語駆使能力を客観的に測定できるテスト

- LTI監督のもとOPI含め昨年世界120ケ国以上で、60万人を超える受験者

- ACE*3単位認証ガイドに準拠し、2,000を超える大学が単位認定に活用中

- 日本では英語に続き、留学生中心に日本語スピーキングテストを提供

- *1 http://global8.or.jp/opic.html
- *2 American Council on the Teaching of Foreign Languages https://www.actfl.org/
- *3 American Council on Education http://www.acenet.edu/Pages/default.aspx

３．理工系人材に関し大学教育と社会が求める人材像との壁

- 「地域のリソースとしての理工系学生」（第5回北海道支部大会@北海道情報大学）
  - http://global8.or.jp/JH5_Presentation.pdf

（現状認識）足りないリソースに過度なスキル（ICT&英語）を壁の中（大学）に要求し、奪い合ったリソースを大都市に集約するだけでICT並びに英語活用の視点では非常に育成効率が疑わしい

- ICTや英語（グローバル）教育を求めながら何故に大都市に集約？
  →働き方改革（サテライトオフィスやSOHO言われて久しいが何故に主流にならない？）
- 高度外国籍の採用（高給待遇）・活用（グローバルマネジメント）
- 共育（見せかけインターン→共同開発・教育：コンピュータ揺籃期や大規模製造工場展開時の再現）

（参考資料）将来リソースの視点から：日本における理工系大学生の位置付け推移

西暦	1998	2009	2016	CAGR(%)	
和暦	H10(12)	H21(22)	H28(27)	Short	Long
GDP(兆円)	500	464	537	2.11	0.40
第二次産業		24.4%	26.8%		
第三次産業		74.5%	72%		
大学生(千人)	2,472	2,846	2,860	0.07	0.81
理工系(千人)	769	811	856	0.78	0.60
同上保健 その他除く	690	623	615	-0.18	-0.63
比率	27.9	21.9	21.5		
備考	GDPマイナスへ	リーマン・ボトム	Global8設立		

- 少子化の中、高等教育進学者は微増。経済の低成長を上回る＝生産性向上を牽引出来ていない
- 従来型理工系(理学、工学、農学、医科歯科)高等教育履修者は減少幅拡大
- 第二次産業＝理工系では無いが、経済拡大を埋め切れずギャップ拡大＝生産性向上and/or海外シフト
- 第三次産業においてもICT活用による生産性拡大が求められ、開発等に理工系人材ニーズ高い
- ICTは基盤技術が日進月歩で基本英語。開発リソースの調達においてもブリッジSEの日本語力のみでは穴埋めが困難。UIに多言語対応や海外展開志向が求められる。

非公開データの考察

- 課題満載の企業グローバル人材（要素Ⅰ*1に関して）ガイドと実ニーズのマッチも無く一括採用で一括大学へのWashBack

- 企業側ニーズを継続するとスキルポートフォリオは改善する

- グローバル人材マッチングは事業立ち上げに苦戦する企業側も成功ロールモデルが乏しい上に一括採用では変化も作り難い。また、変化の激しい時代、成功時点でレガシー化するので、産学の壁を越えた協創が必要

*1：文部科学省が定義するグローバル人材に求められる3つの要素

東京大学工学部Mスカイプ受講者の評価('15-'16)

- '15は'16に比して効果量は下回っているが、RISTEX/VELCOLEプロジェクトでOPIcプレミアムレポートを活用し、eLearningのサプリメント教育の効果的アドバイスが功を奏しCOIL型教育の支援のあり方を示唆していると考える
  http://www.comp.tmu.ac.jp/smmlab/research/velcole/index.html
  http://www.kansai-u.ac.jp/Kokusai/IIGE/JPN-COIL/

- インターネット電話スカイプを利用した海外大学との交流とその効果/森村久美子(東京大学) https://www.jstage.jst.go.jp/article/jseeja/2016/0/2016_320/_pdf/-char/ja

	n	プリM	SD	ポストM	SD	効果量	UP/DN率	AL人数	実用比率	到達比率
工学部Mスカイプ	20	6.8	1.54	7.5	1	0.42	65	1	70	100
同上FY16	18	5.2	1.29	5.9	1.43	0.60	77.8		27.8	88.9

概念定義

サービス科学：RISTEX助成研究
高等教育を対象とした提供者のコンピテンシーと受給者のリテラシーの向上による共創的価値*1の実現方法の開発 - Project VELCOLE - ：記念フォーラム発表より抜粋

コンピテンシー

- ある文脈下で価値を実現する際に用いられる知識やスキル

リテラシー

- 文脈価値を実現するために必要なコンピテンシーを適用するための能力
- コンピテンシーを適用する能力だけでなく、提供者と受給者が互いのコンテキストを共有し、すり合わせる能力を含む

メタ認知

- リテラシーの中核となる能力概念
- 「知覚する」「記憶する」「理解する」などの自己の認知活動を客体化して把握し、それらの認知活動をコントロールする能力
- コンテキストの共有とすり合わせを行う上では、自身の認知活動だけなく、他者の認知活動も把握し、必要に応じて変容を促すことが必要

*1 **価値共創型学習モデル** www.comp.tmu.ac.jp/smmlab/research/velcole/index.html

壁の突破への挑戦（支援）：当法人賛助会員と「つながり」を意識したこの１年の連携

2018/10/17 公益財団法人 中谷医工計測技術振興財団

- https://www.nakatani-foundation.jp/business/ries_top/

☆2019/1/1 株式会社地球の歩き方Ｔ＆Ｅ

- https://www.studyabroad.co.jp/univ/

☆2019/1/1株式会社留学ジャーナル

- https://www.ryugaku.co.jp/

公益財団法人 中谷医工計測技術振興財団と「つながり」を意識した連携

プログラム適用の背景

- 提携先学生の来日語学力事前評価OPI→OPIcの検討
- 連携による応募学生の拡がりと選抜方法効率化

OPIc適用結果

- http://global8.or.jp/NF_Research_Internship.pdf
- 地方並びに女性活躍を考えるデータ

NFSIG立上げ

- 準会員ポートフォリオ：男女比適切、地域的には北海道支部・中部支部が欠員状態
- 地域的空白区を来年度以降の適用実施で意識して埋めると共に、ロールモデル学生からの発信機会を増やし、会員の継続・拡大に尽力

プログラム概要と帰国レポート、来年募集

- https://www.nakatani-foundation.jp/achievements/ries_achievements_list/

NFSIGメンバーからのフィードバック（参考引用）1/3

提示情報項目	回答情報
大　学　名	鳥取大学
所在都道府県	鳥取県
ＮＦ受験時事前自己評価	ＩＭ＝６
ＮＦ受験時ＯＰＩｃ評価	ＩＭ２＝６
ＮＦ受験時将来目標	ＡＬ＝９
準会員加入動機 ・ＯＰＩｃの感想	動機：OPIc を比較的安価で受けられたため。今後の英語学習の指標の一つにしようと考えたため。 感想：これまで受けてきた英語試験のスピーキングと比べ、より実践的・日常的であると感じた。今まで受けてきた英語の試験のスピーキングの中でも、より日常的であり、試験自体に楽しさが感じられた。
会員初年度ＯＰＩｃ評価	ＩＭ１＝５
上記期間における 主な学習方法	主に日本英語検定の２次(スピーキング)・TOEFL iBT のスピーキングの練習・模試
レベル変化に対する 自己分析	レベル低下の原因を、試験自体への対策不足が起因していたと考えた。よくも悪くも、試験に対しての緊張感が低下していたため。（２回目は財団留学がかかっていない、自己啓発が目的であったこと）

NFSIGメンバーからのフィードバック（参考引用）2/3

提示情報項目	回答情報
目標達成に向けての当面の学習方案	英語学習全般については、今後も、アウトプットを中心に心がけたい。 OPIc に関しては、より説明に力を入れられるよう、語彙力や言い回しの引き出しを増やしたい。また、話し言葉の文法が得意ではないため、そこのあたりも改善したい。
理系としてＩＣＴやＣＢＴ活用による地方のハンディ克服や世界との「つながり」について	ICT, IBT による試験は地方の大学生からすると金銭的・時間的負担が少なく、非常にやりやすかった。(TOEFL 等は都市圏でしか行われていないため) このような試験の認知度が高まると、自己啓発の機会が増えると感じた。 また、この試験の結果をもとに、モチベーションの高い世界中の学生とつながれるコミュニティが存在すれば、より切磋琢磨できる機会が増えるのではないかと考えた。
その他・自由記述	OPIc は、比較的安価で iBT でできるテストとしては非常に質の高いものであると感じた。一方で、日本国内での知名度の低さ・並びに活用例が少ないと思った。ここのあたりの知名度の低さを改善すれば、TOEIC (S/W)のような試験と同様に市民権を得られるであろうと期待している。

公立大学から初の選抜（事前OPIc評価：IM1）
（帰国後翌日の感想提供に新たな「つながり」を予感）

- **送信日時**: 2019年9月20日 16:11
- **件名**: Re: グローバル人材育成教育学会第5回北海道支部大会一般演題採択

昨夜、無事に日本に帰国しました。
今回のリサーチインターンシップに参加して将来の選択肢が広がったように思います。
語学に関してはまだまだで、悔しい思いをすることの方が多かったです。
ハイデルベルク大学周辺の若者は誰に話しかけても流暢に英語を話しており、
日本との差を感じました。
OPIcなどのスピーキングに特化した語学試験を取り入れることは、国際的に活躍するためにに必須だと改めて思いました。

公益財団法人 中谷医工計測技術振興財団と「つながり」を意識した連携　Add　On

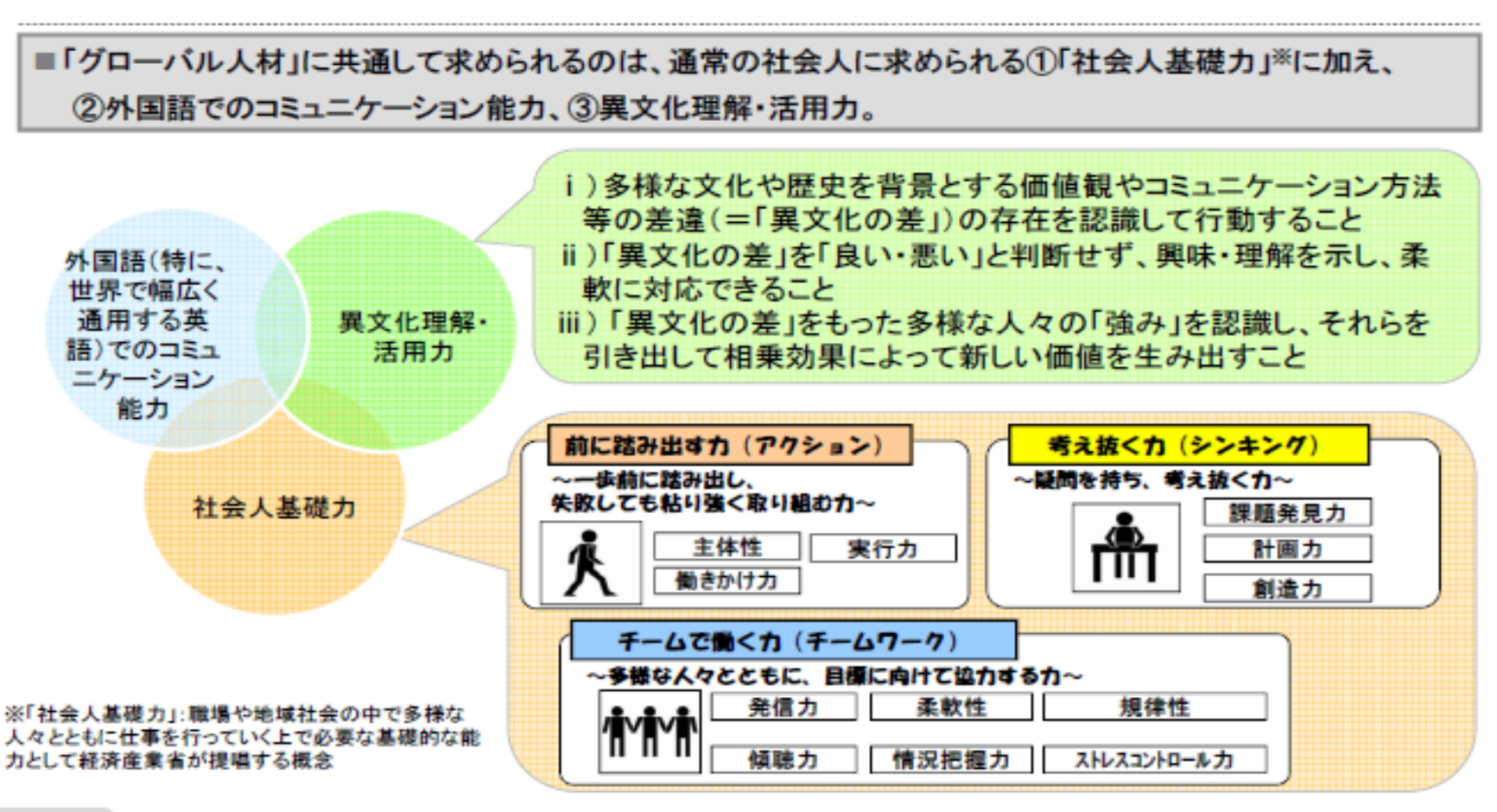
公立大学から初の選抜（事前OPIc評価：IM1 ）

- フォローアップ評価: 2019年11月30日 IH

来年募集（2020/8/9-9/20 米ジョージア工科大学)

- https://www.nakatani-foundation.jp/wp-content/themes/nakatani-foundation/module/pdf/nakatani-ries/nakatani-ries_leaflet_191122.pdf

企業の大学への発信情報：グローバル人材に求められる能力



引用：“グローバル人材に求められる能力” 経済産業省グローバル人材育成委員会. http://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/san_gaku_ps/2010globalhoukokusho_summary.pdf,(参照2016-09-20)

TOEICスコア

レベル	TOEIC スコア	評価（ガイドライン）
A	860	**Non-Nativeとして十分なコミュニケーションができる。** 自己の経験の範囲内では、専門外の分野の話題に対しても十分な理解とふさわしい表現ができる。Native Speakerの域には一歩隔たりがあるとはいえ、語彙・文法・構文のいずれをも正確に把握し、流暢に駆使する力を持っている。
B	730	**どんな状況でも適切なコミュニケーションができる素地を備えている。** 通常会話は完全に理解でき、応答もはやい。話題が特定分野にわたっても、対応できる力を持っている。業務上も大きな支障はない。 正確さと流暢さに個人差があり、文法・構文上の誤りが見受けられる場合もあるが、意思疎通を妨げるほどではない。
C	470	**日常生活のニーズを充足し、限定された範囲内では業務上のコミュニケーションができる。** 通常会話であれば、要点を理解し、応答にも支障はない。複雑な場面における的確な対応や意思疎通になると、巧拙の差が見られる。 基本的な文法・構文は身についており、表現力の不足はあっても、ともかく自己の意思を伝える語彙を備えている。
D	220	**通常会話で最低限のコミュニケーションができる。** ゆっくり話してもらうか、繰り返しや言い換えをしてもらえば、簡単な会話は理解できる。 身近な話題であれば応答も可能である。 語彙・文法・構文ともに不十分なところは多いが、相手がNon-Nativeに特別な配慮をしてくれる場合には、意思疎通をはかることができる。
E		**コミュニケーションができるまでに至っていない。** 単純な会話をゆっくり話してもらっても、部分的にしか理解できない。 断片的に単語を並べる程度で、実質的な意思疎通の役には立たない。

一般社団法人国際ビジネスコミュニケーション協会

【企業の声】

TOEICは
Speaking力を反映していないため
海外赴任時に必要なコミュニケーション
能力を充分に評価できるとは限らない

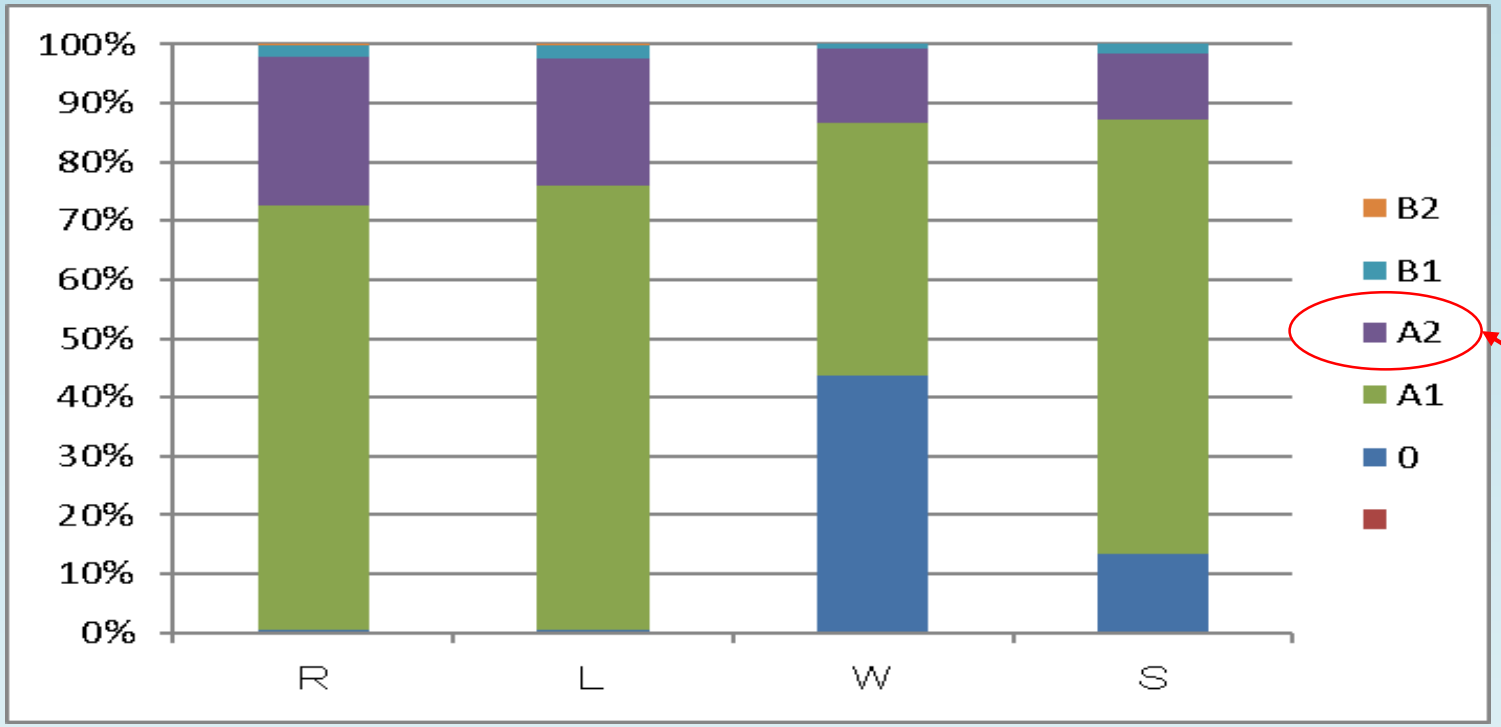
↓

従業員のTOEIC受検は引き続き勧奨
するが、それにOPIcを加えることで総合的に
語学力を評価したい

S社（製薬企業）人事担当者

平成26年度文部科学省英語力調査（高校3年生）

- CEFRベースでOPIc換算すると1.94レベル



ACTFLｶﾞｲﾄﾞ IL=4

調査対象者	68,732	68,679	69,047	16,583

OPIc
ACTFL Oral Proficiency Interview - computer®

全員への適用は教育効果測定や改善には有意義

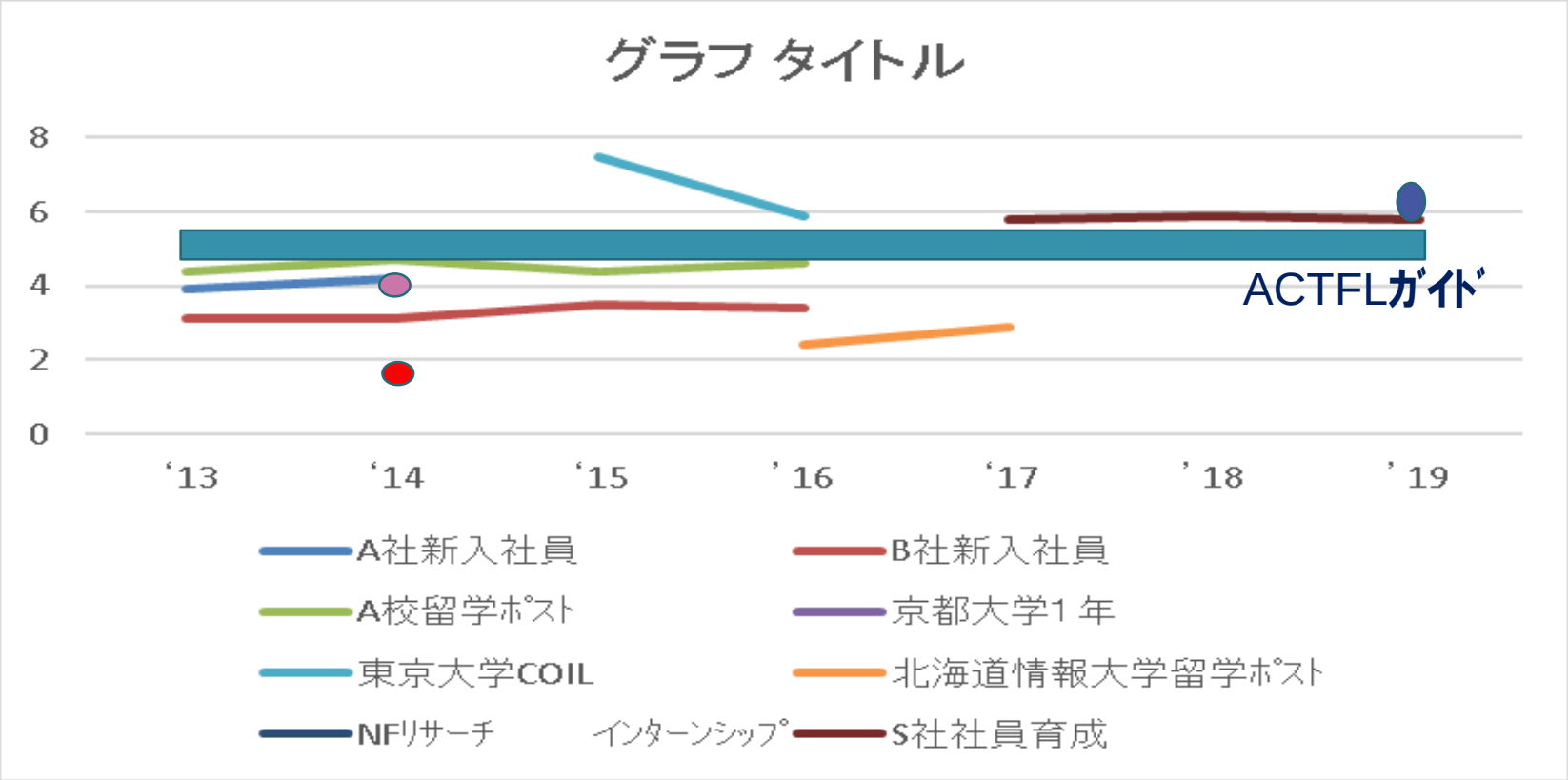
動機付けが弱いとROI的には疑問で実用レベルの育成・選抜には疑問

	‘13	‘14	‘15	’16	‘17	’18	’19	考察・備考
A社新入社員	3.9	4.2						継続による向上
B社新入社員	3.1	3.1	3.5	3.4				最終年AL達成者
A校留学ﾎﾟｽﾄ	4.4	4.7	4.4	4.6				
京都大学1年			4.1					Writing
東京大学COIL			7.5	5.9				’15はRISTEX特別強化
北海道情報大学留学ﾎﾟｽﾄ				2.4	2.9			
NFﾘｻｰﾁｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ							6	
S社社員育成					5.8	5.9	5.8	順調に対象拡大

「つながり」・拡がりを考える材料（可視化グラフ）

全員への適用は教育効果測定や改善には有意義

動機付けが弱いとROI的には疑問で実用レベルの育成・選抜には疑問



- NFリサーチ平均
- 高校3年キャズム
- 高校3年平均

４．海外留学（特に語学留学）に関する期待と実態の壁

- 「賛助会員として海外留学の効果を考察する」（第5回中国・四国支部大会@広島文教大学）
  - http://global8.or.jp/JAGCE_CS5.pdf

（現状認識）文部科学省がグローバル人材で定義する各要素総合的に学ぶ海外留学に勝るものは無い。ただ海外留学でも語学学習・異文化体験型等工夫はされているものの経済的・時間的制約を考えたベストマッチは難しく、結果として目的・効果・成果の曖昧な体験型或いは極論すると海外旅行？と疑われるケースも見受けられる。

効果の考察対象と評価に使用した英語コミュニケーションテストＯＰＩｃについて

文部科学省グローバル人材の定義

- 要素Ⅰ（語学力・コミュニケーション能力）

- 要素Ⅱ（主体性・積極性、チャンレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感）

『海外留学の客観的効果測定　国際シンポジウム』（広島大学主催）

https://www.hiroshima-u.ac.jp/sgu/news/53177

- 要素Ⅲ（異文化に対する理解と日本人としてのアイデンテイテイー）

海外留学評価視点で有効と思われるOPI c の特徴

- 長期留学では渡航国によって政策的に試験が採用されている傾向あるが米国中心にスピーキング（会話系）重視
  - フライヤー裏面ジョージア大学基準参照
- 短期・中期の一部含め凡そ8割の海外留学においては英語テストの入学基準が存在しないと思われる。反面評価は定期的な理解力系（L/R)テスト中心
- 仮にプログラム評価向けに（L/R)テスト設定しても効果は？
  - 『海外留学の客観的効果測定　国際シンポジウム』（広島大学主催）

    https://www.hiroshima-u.ac.jp/sgu/news/53177

    (芝浦工業大学発表） https://www.hiroshima-u.ac.jp/system/files/127496/事例紹介%28PROG%29symposium20191004_1.pdf　p32

大学生の海外留学事情｜統計データから読み取る日本人学生の動向

- https://campus-hub.jp/article923 から

順　位	国　名	割　合(%)
1位	アメリカ	57.1
2位	イギリス	8.9
3位	オーストラリア	5.7
4位	カナダ	4.9
4位	ドイツ	4.9

- 留学の定義かデータの古さかアジア近隣国が無い（或いは差分の18.5%内数？）

（参考資料）2014年度の留学期間別留学者数

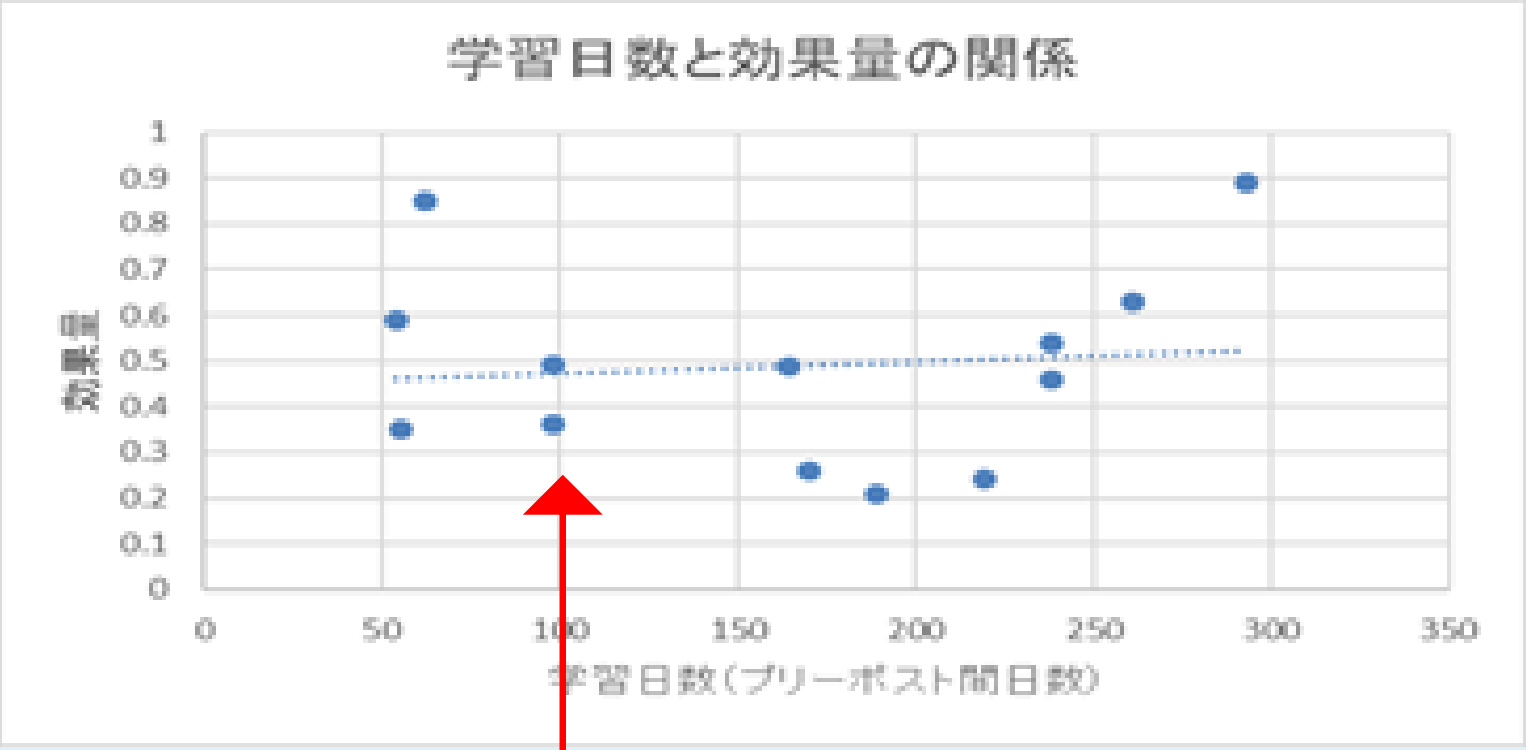
大学生の海外留学事情｜統計データから読み取る日本人学生の動向

- https://campus-hub.jp/article923 から

期　間	留学者数	全体比率(%)	前年伸び率(%)
1か月未満	48,853名（前年比+8,326）	60.2	20.5
1か月以上～3か月未満	8,418名（前年比+803）	10.4	10.5
3か月以上～6か月未満	8,670名（前年比+1,345）	10.7	18.4
6か月以上～1年未満	13,198名（前年比+748）	16.2	6.0
1年以上	1,650名（前年比−63）	2.0	−3.7
不明	430名（前年比+191）	0.5	79.9
合　計	81,219名（前年比+11,350）	100	16.2

学習日数と効果量（評価対象の平均向上と偏差変化が因数）の関係

- グローバル人材育成教育学会第5回全国大会でポスター発表
  http://global8.or.jp/JAGCE17_poster.pdf　**から**



授業のプリーポスト期間

A校海外短期語学研修(‘13-’16)

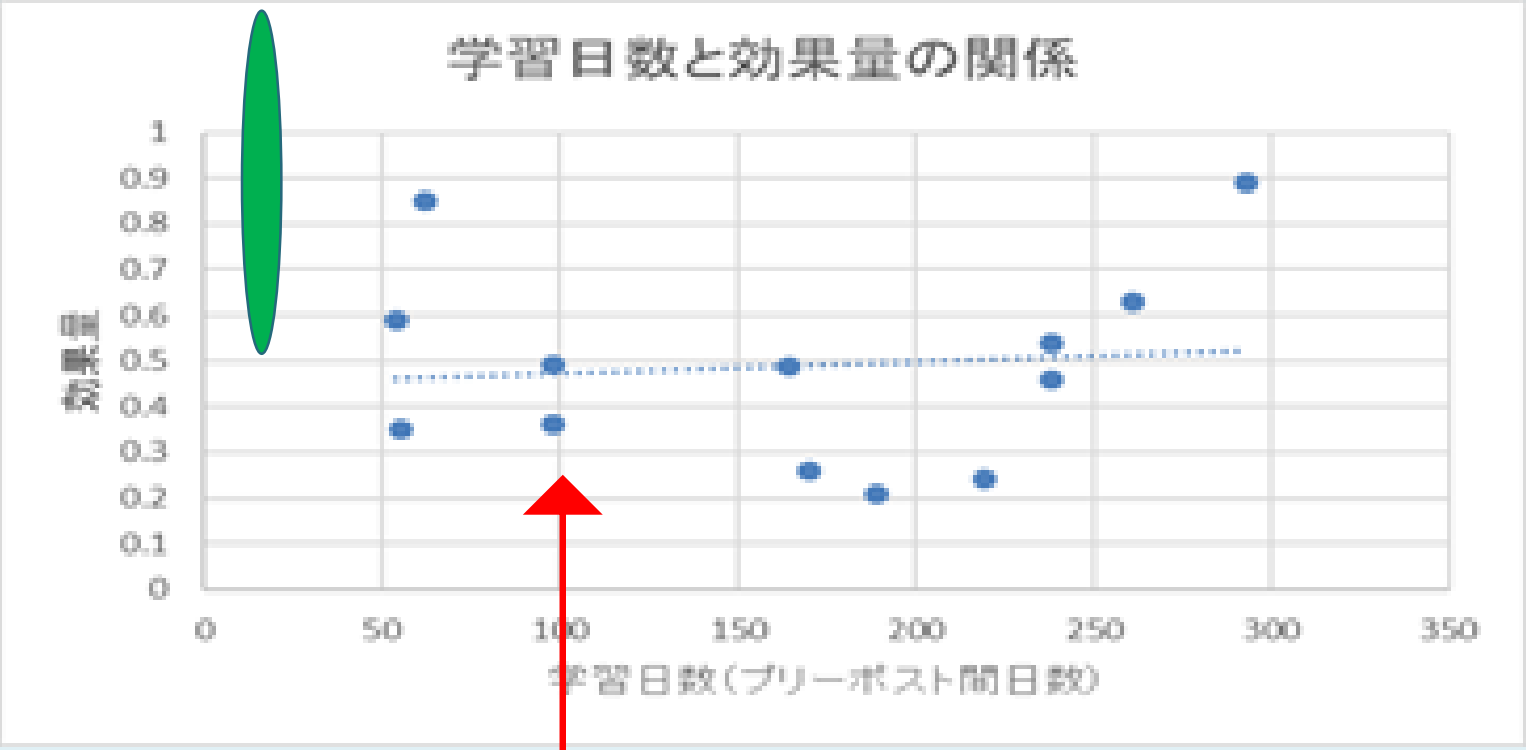
- **留学先での事後評価（効果定着）と帰国後評価（効果剥落）にも注目**

	n	プリM	SD	ポストM	SD	効果量	UP/DN率	AL人数	実用比率	到達比率
FY13	10	4.5	1.65	4.4	1.35	−0.06	−10		10	20
FY14	18	3.9	1.23	4.7	1.37	0.63	77.8		11	44.4
NZオンサイト	6	3.3	0.52	4	0.63	1.29	66.7			16.7
FY15	17	3.9	0.7	4.4	0.49	0.67	44.4			35.3
NZオンサイト	5	3.6	0.55	4.4	0.55	1.45	50			40
USAオンサイト	8	4.0	0.93	4.5	0.53	0.54	50			50
FY16	19	3.8	1.08	4.6	0.77	0.74	78.9			53

- 2019/9/22(Sun) **グローバル人材育成教育学会第5回北海道支部大会＠北海道情報大学「地域のリソースとしての理工系学生」発表内容参照**

学習日数と効果量の関係

- グローバル人材育成教育学会第5回全国大会でポスター発表
  http://global8.or.jp/JAGCE17_poster.pdf　**から**



授業のプリーポスト期間

C女子大学短期大学部海外短期語学研修(’16)

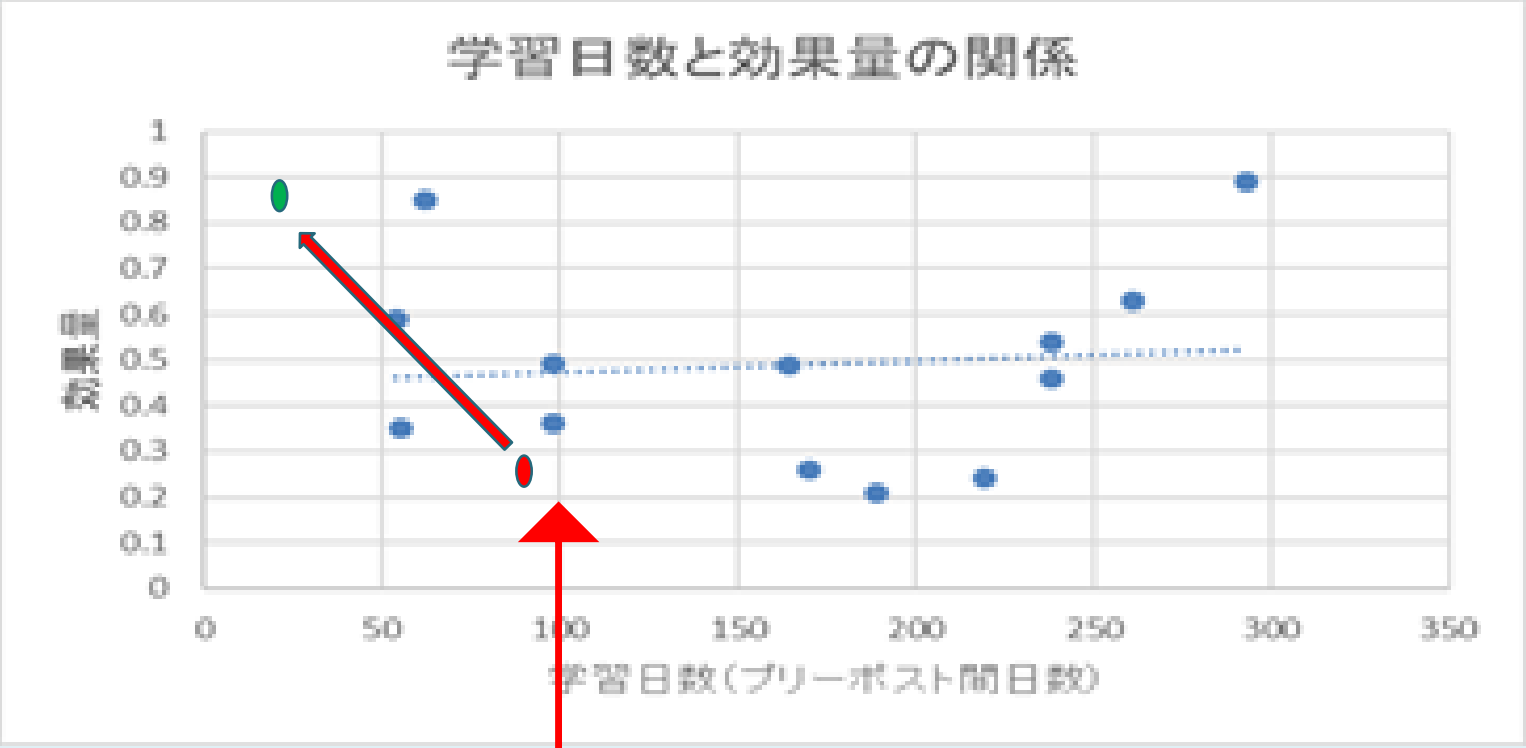
- 同大学におけるスカイプ活用授業(３ケ月)も一定の効果認められるが短期海外留学は更に顕著な効果が認められる

クラス	n	プリM	SD	ポストM	SD	効果量	UP/DN率
海外短期留学	20	3	0.82	3.7	0.75	0.85	40
教材統制スカイプ	23	3.4	1.08	3.7	0.83	0.28	21.7
一般スカイプ	19	3.1	0.85	3.3	0.82	0.24	26.3

- 集団型短期海外留学の特性か上位の者においては成長は認められなかった
  →要素Ｉ以外の習得活動の指導を行うかクラス編成の配慮も必要か？

学習日数と効果量の関係

- グローバル人材育成教育学会第5回全国大会でポスター発表
  http://global8.or.jp/JAGCE17_poster.pdf　**から**



授業のプリーポスト期間

摂南大学海外留学の位置付け遷移

- 希望者語学留学においては半年で一定の効果に達すると考える
- １年の語学留学は上位を目指すには必要な期間と考えるが事前の評価無しには目標・目的達成設定が困難に見受けられる

クラス	n	プリM	SD	ポストM	SD	効果量	UP/DN率	実用比率	到達比率
半年留学生	5	4.4	0.55	5.2	0.45	1.45	80		100
1年留学生	11			5.1	1.38			9.1	64
新コース準備期間	26	3.6	0.64	4.3	0.62	1.13	73.1		38
新コース留学	13	4.2	0.69	5.2	0.93	1.45	107.7	7.7	92.3

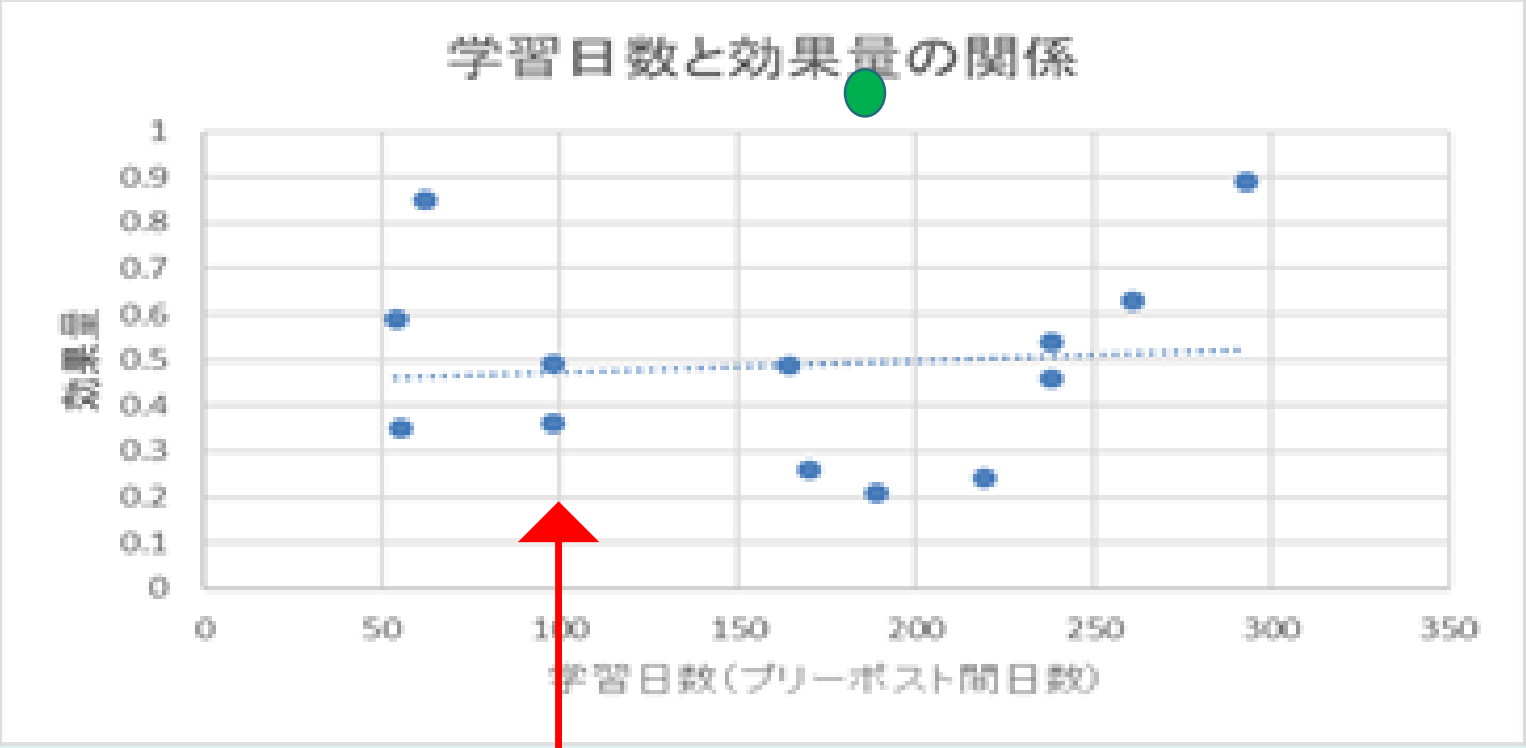
- 全員海外留学コースの設定は大学全入時代に難しい挑戦であるが、であるからこそ適切な時期の評価やリフレクションは重要で、同校の取組は成果を充分上げていると考える

4技能重視の英語教育への転換～新カリキュラム1期生の2年半の経過報告

／松田早恵・鳥居祐介・後藤一章（摂南大学）　尚、以下レポートの留学評価対象者は実施認識の関係で少々異なる　http://global8.or.jp/2017JACET_Setsunan.pdf

学習日数と効果量の関係

- グローバル人材育成教育学会第5回全国大会でポスター発表
  http://global8.or.jp/JAGCE17_poster.pdf　**から**



授業のプリーポスト期間

壁の突破への挑戦（支援）：当法人賛助会員と「つながり」を意識したこの１年の連携

2018/10/17 **公益財団法人 中谷医工計測技術振興財団**

- https://www.nakatani-foundation.jp/business/ries_top/

☆2019/1/1 **株式会社地球の歩き方Ｔ＆Ｅ**

- https://www.studyabroad.co.jp/univ/

☆2019/1/1**株式会社留学ジャーナル**

- https://www.ryugaku.co.jp/

株式会社留学ジャーナルと「つながり」を意識した連携

Global8:先ずは「東京留学ジャーナルカウンセリングセンター(信濃町)」を個人受験希望者に受験会場として提供

留学ジャーナル:企業向け海外留学研修の目的明確化や効果検証で活用開始

- 通常の評価・Certificate発行に加え東京大学M－Skype(COIL)強化で実施したプレミアムレポート評価を依頼し、学習者並びに留学先の意識を合わせるサービス提供

→ https://www.ryugaku.co.jp/corporate/column/column_023271.html

株式会社留学ジャーナルと「つながり」を意識した連携の評価レポート（参考）

企　業　名	株式会社電業社機械製作所
業　種　分　類	製造業
職　種　分　類	資材調達業務
所在都道府県	東京都
留学前受験時事前自己評価	旅行の際レストランなどで注文可能
留学前受験時ＯＰＩｃ評価	Novice High(レベル３)
将来目標	仕事上で海外企業との交渉可能
留学後受験時ＯＰＩｃ評価	Intermediate Mid（レベル６）
上記期間における 主な留学学習内容	語学学校で、基礎クラス、文法クラス、会話クラス、語彙クラス、ビジネスクラス、発音クラス　の受講。+英語で日記をつけていた。
レベル変化に対する 自己分析	以前は英語を避けていたが、もっと英語を話したいという意欲が湧くようになった。
留学前ＯＰＩｃ受験の意義	留学中は自分がレベルアップしているかどうかの実感を持てないため、留学前の自分のレベルを測っておくことで、帰国後に自己のレベルアップを確認できてよい。自信に繋がる。
その他・自由記述	出題のトピックを選べるため、もともとアイデアのない質問に答える必要がなく、“英語力”のみにフォーカスされている点が良い。

株式会社留学ジャーナルと「つながり」を意識した連携の評価レポート（参考）

企　業　名	株式会社電業社機械製作所
業　種　分　類	製造業
職　種　分　類	資材調達業務
所在都道府県	東京都
留学前受験時事前自己評価	旅行の際レストランなどで注文可能
留学前受験時ＯＰＩｃ評価	Novice High(レベル３)
将来目標	仕事上で海外企業との交渉可能
留学後受験時ＯＰＩｃ評価	Intermediate Mid（レベル６）
上記期間における 主な留学学習内容	語学学校で、基礎クラス、文法クラス、会話クラス、語彙クラス、ビジネスクラス、発音クラス　の受講。+英語で日記をつけていた。
レベル変化に対する 自己分析	以前は英語を避けていたが、もっと英語を話したいという意欲が湧くようになった。
留学前ＯＰＩｃ受験の意義	留学中は自分がレベルアップしているかどうかの実感を持てないため、留学前の自分のレベルを測っておくことで、帰国後に自己のレベルアップを確認できてよい。自信に繋がる。
その他・自由記述	出題のトピックを選べるため、もともとアイデアのない質問に答える必要がなく、“英語力”のみにフォーカスされている点が良い。

留学ジャーナル追加情報項目	回　答
留学渡航先	カナダ　ILSCトロント校
留学期間	3ヶ月
今回企画全般でのコメント	中級以上のレベルに上がると多様な選択科目を取れるのが特徴のプログラム。 特にビジネス英語クラスを受講したことが、本人とって英語力UPに大きく繋がったよう。

５．外国籍に求める日本語会話力と日本人の英語会話力の比較から双方の壁の比較

- 「CBTによる日本語学習者の口頭能力測定」（LET第58回全国研究大会：世良時子）
  - http://global8.or.jp/Ms.Sera_OPIcJ@2018LET.pdf （JSPS科研費 JP17K02865助成研究）
  - 外国語教育メディア学会（LET）：コミュニケーション可視化の多くの挑戦並びに効果量概念

（現状認識）足りないリソースに過度なスキル（日本語）、職務（プロセス曖昧な業務遂行の行われる職場）をそれぞれの壁の中（特に日本語教育）に要求し、奪い合ったリソースを職場配置。地域コミュニティとの融合は役所任せでは健全な定着が怪しい

- 日本語（特に発信系）評価と業務プロセスを夫々の責任で可視化しマッチングを試みる
- 英語コミュニケーションで同様の悩みを持つ日本人学生との交流を促し新たなコミュニティーの構築を促す

日本における日本語試験

公的資格となる紙筆試験

- **日本語能力試験（JLPT）：世界最大規模の日本語試験**
  - 内容：言語知識（文字・語彙・文法）、読解、聴解
  - 実施団体：独立行政法人国際交流基金、公益財団法人日本国際教育支援協会
- **日本留学試験（EJU）：日本の大学（学部等）への入学希望者対象**
  - 内容：日本語（記述（作文）、読解、聴読解・聴解）
  - 実施団体：独立行政法人日本学生支援機構

CBT試験

- **BJTビジネス日本語能力テスト**：2017年4月よりCBT化
  - 内容：聴解、聴読解、読解　　実施団体：財団法人日本漢字能力検定協会
- **J-CAT 日本語テスト**：無料提供のAdaptive Test（今後、有料化の予定）
  - 内容：聴解、語彙、文法、読解　実施団体： J-CATプロジェクトチーム、筑波大

スピーキングテスト

- **JSST**　主催：株式会社アルク

日本における日本語試験の壁を乗り越える試み

- 一挙に増大する外国籍とそのニーズ（今年4月１日施行された改正入管法で5年間で34万人強の新たな外国人労働者の受入れ計画に端を発して、日本語能力の評価もCEFR基準や発信型能力と、日本人の英語能力同様の議論が始まった。又、2008年に公表された留学生30万人計画も、その内容実態は議論の余地があるものの概ね数的到達を迎える段階）

試み概況

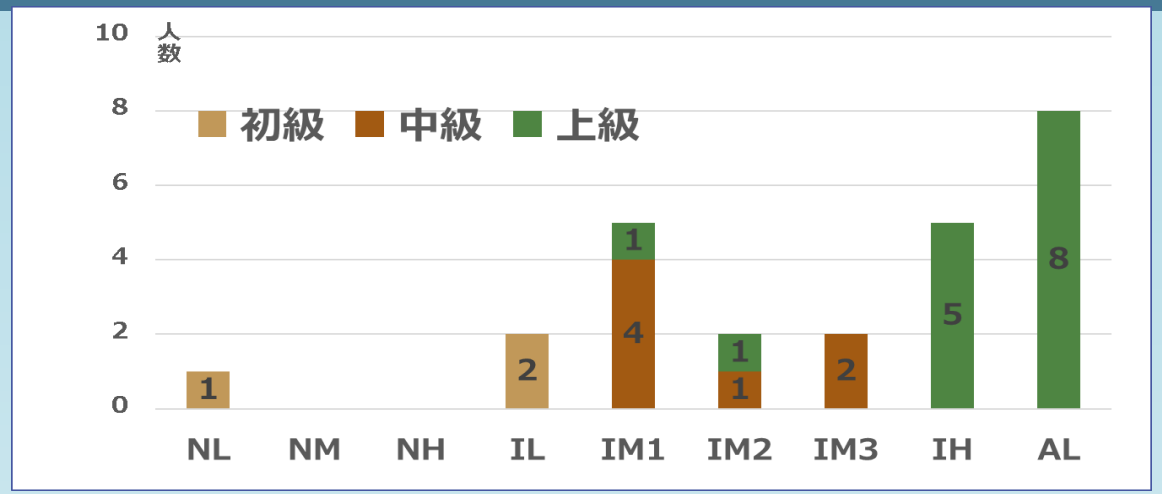
	初級	中級	上級	計
人数	3	7	15	25名
母語	英，中	英，中，仏，露	英，韓，中	5言語

上級：レベル６（N1取得以上）
　　レベル５（Ｎ１を目指すレベル）
中級：レベル４（中級中後半、N2を目指すレベル）
　　レベル３（中級前半、N3を目指すレベル）
初級：レベル２（初級後半）・・　国費留学生等
　　レベル１（ゼロ初級）

- レベルは学習者の在籍クラスによる。在籍クラスはプレースメントテスト（以下、PT：漢字・文法・読解と**面接**から成る）、もしくは、PTの翌学期での進級による。

日本における日本語試験の壁を乗り越える試みで得た共通課題や異なる実態

試み評価結果



- 上級者においても13．3％ビジネスで期待するレベルと乖離がある
- 中級者においては、日本人の英語学習者と異なりバランスよく教育効果が伺える
- 初級者においても留学効果としてコミュニケーションで「つながる」レベルに近い層が存在

共通課題：　教育・評価は外国籍にとって容易なICT活用に遅れ。

公的資格試験が社会やコミュニティー生活の基盤となる会話系のコミュニケーションを網羅せず。>>問題解決がパッチワークとなり予想外のコスト増大・混乱要素となる懸念が大

今後に対する提言に資する材料提供(1/2)

受験後アンケート結果(５段階評価)

- 内容：試験の内容は面白かったか　3.56
- 能力の発揮：自分の能力は発揮できたか　3.08
- 予想との比較：受験前の予想よりできたか　2.84
- 動機付け：試験を受けて今後の日本語学習にやる気が出たか　4.32

自由記述

- インタビューするときの話は日常練習の書く文章と比べて大きな差があると思う。「書く」は考えながら書くことができ、書き間違ったらもう一度書き直しもできるが、「話す」は二度の機会がない。緊張感もすごく大きいと思う。
- 試験のレベルはTOEFLは同じと思います。話の練習が少ない私にとって少し難しいと思います。
- http://global8.or.jp/OPIc-J.pdf 参照

法務省・日本語教育機関の告示基準に基づく各種報告について

- http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/nyuukokukanri07_00218.html
- CEFR A2レベル　N4(公式レポート無し)
- 基準設定は是とするものの、OPIcではIL(研究レポート有)。
  但し、社会への適応を考えた場合ACTFL 5C<Communication, Cultures, Connections, Comparisons, Communities>の概念が日本では意外と多様で、B1を基準として未達救済を考えないと法務行政として課題が大きい？
- 参照文献　http://www.y-kurata.com/dpkaken/dp19001.pdf

壁の突破への挑戦（支援）：当法人賛助会員と「つながり」を意識したこの１年の連携

2018/10/17 **公益財団法人 中谷医工計測技術振興財団**

- https://www.nakatani-foundation.jp/business/ries_top/

☆2019/1/1 **株式会社地球の歩き方Ｔ＆Ｅ**

- https://www.studyabroad.co.jp/univ/

☆2019/1/1 **株式会社留学ジャーナル**

- https://www.ryugaku.co.jp/

2020/1/1 **ヒューマンアカデミー株式会社(外国人向け日本語教育事業)**

- https://hajl.athuman.com/?code=120401

（参考資料）ヒューマンアカデミー株式会社(外国人向け日本語教育事業)

文部科学省：平成29年度日本語教育機関における外国人留学生への教育の実施状況の公表について

- http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/1382482.htm

61 / 86 目次 幅に合わせる ページ表示 音声で読み上げる ノートの追加

法務省告示をもって定める日本語教育機関における教育の実施状況

2017年11月1日現在

1. 機関概要

機関名： ヒューマンアカデミー日本語学校東京校
所在地： 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-18-13 サクセス高田馬場ビル4階
設置校URL： http://hajl.athuman.com/
電話番号： 03-5348-8951
E-Mail： tjp22@athuman.com
設置者名： ヒューマンアカデミー株式会社
設置者種別： 株式会社
法務省告示認定年月： 1991年4月
加盟団体名： 有 日本語教育振興協会

代表者名 新井 孝高
校長名： 辻 和子
主任教員名： 青柳 恵
教 員 数： 93人（うち専任31人）
収容定員 1840名
入学資格 12年課程修了以上及び同等レベルの者
選抜方法 書類審査、本人面接、経費支弁者面接
学生宿舎 無
第三者評価： 無

2. 在籍状況

設置コース	目的	修業年限	収容定員（人）	在籍者数（人）	設置年度（西暦）	入学時期（月）	納付金（円） 選考料	入学金	授業料	その他	合計
進学2年コース	進学	2年	400	633	1991	4	21,600	64,800	1,166,400	84,400	1,337,200
進学1年9か月コース	進学	1年9か月	380	430	1991	7	21,600	64,800	1,020,600	73,850	1,180,850
進学1年6か月コース	進学	1年6か月	400	365	1991	10	21,600	64,800	874,800	63,300	1,024,500
進学1年3か月コース	進学	1年3か月	360	261	1991	1	21,600	64,800	729,000	52,700	868,100
一般2年コース	一般	2年	300	126	1991	4,7,10,1	21,600	64,800	1,166,400	84,400	1,337,200
		合計	1840	1815							

3. 在籍している学生数

在留資格が「留学」となっている在籍者の主な出身国・地域別人数（a）											
中国	韓国	台湾	モンゴル	ベトナム	カンボジア	インド	ネパール	バングラデシュ	スリランカ		
781	137	17	4	207	1	5	61	35	128		
ミャンマー	タイ	マレーシア	インドネシア	フィリピン	オーストラリア	カナダ	アメリカ	メキシコ	スウェーデン	(a)在籍者（留学）合計	
129	6	1	21	78	1	0	2	0	0	1815	
イギリス	ドイツ	フランス	スペイン	イタリア	スイス	ロシア	ウズベキスタン	キルギス	その他	(b)在籍者（留学以外）合計	
1	0	0	3	0	0	5	174	1	17	134	
その他の在留資格の在籍者数（留学以外の在留資格で在籍している学生）(b)						134				(a)+(b)在籍者合計	
										1949	

4. 進学予備教育の実施状況

教科名	英語	数学	物理	化学	生物	総合科目	小論文
開設科目数	0	0	0	0	0	0	0
1科目あたりの授業時間数	0	0	0	0	0	0	0
実施方法							

5. 日本語能力試験 受験状況（第1回、第2回試験合計） （2016年度実績）

	N1	N2	N3	N4	N5	計
受験者数	171	438	360	56	5	1030
認定者数	49	152	95	16	3	315

6. 日本留学試験（EJU）受験状況 （2016年度実績）

第1回（6月実施分） 日本語		理科・総合・数学 文系		理科・総合・数学 理系		第2回（11月実施分） 日本語		理科・総合・数学 文系		理科・総合・数学 理系	
受験者数	219点以上の得点者数	受験者数	100点以上の得点者数	受験者数	100点以上の得点者数	受験者数	219点以上の得点者数	受験者数	100点以上の得点者数	受験者数	100点以上の得点者数
101	52	41	17	49	21	137	67	58	23	72	27

7. 進学先 （2016年度実績）

大学院計		53	大学計		162							
大学院			大学			短期大学	高等専門学校	専修学校（専門課程）	各種学校	帰国	その他（就職等）	卒業者計
国立	公立	私立	国立	公立	私立							
6	3	44	1	2	159	6	0	236	1	0	55	513
主な進学先：	早稲田大学大学院、立教大学大学院、横浜国立大学大学院、東京工業大学大学院、京都大学大学院、早稲田大学、立教大学、学習院大学、明治大学、青山学院大学、御茶ノ水女子大学、武蔵野美術大学、文化服装学院、東京モード学園、東京製菓学校、ハリウッドビューティー専門学校、山野美容専門学校、服部栄養専門学校、東放学園、日本ブラウーデザイン専門学校など											
主な就職先：	株式会社SEE DNA、HACIENDA株式会社、株式会社 三幸など											

OPIc ACTFL Oral Proficiency Interview - computer®
GLOBAL8

ボーダー（壁）を乗り越える会話力の可視化への試みを通した総括

- 変化の著しい時代、外国語4技能向上要請は理解出来るが、**教育現場への過度な要求や一括の線引きは育成機会の損失や徒労感**を産み出しかねない
- 可視化で得た適切な教育機会や手法をICT等を活用した新たな「つながり」（教育の場）として教育（従来型）・共育（先生・生徒双方の学び）・協育（新たなコミュニティー形成に向け）創り、ボーダー（壁）乗り越えに挑戦する

ボーダー（壁）を乗り越える会話力の可視化への提言

- 新たな社会構造を短期間で０／１で実現することは不可能
- マーケティングの**キャズム理論（普及率１６％の理論）**同様のロールモデル・層設定による壁内部での育成指導、評価・アサイン適用をデザインしながら「つながる」自助教育
- 法務行政としてはVISA更新時に継続的に適用し継続妥当性のみならず社会との「つながり」検証材料としても検討（日本の試験は免状的だが、海外全般に試験結果有効期間は２年）
- 教育機関の監督・排除に留まらず、奨励や「つながり」再設計支援等、人を「つなぐ」総合行政

OPIc

ACTFL Oral Proficiency Interview - computer ®

時間軸と空間軸を見据えたつながり

Global8 → ∞